

第18回「斐伊川・神戸川流域環境マップづくり」成果発表会

日時：令和6年11月30日(土)14:30～16:00 会場：出雲科学館 理科学習棟3階

主催：NPO法人しまね体験活動支援センター

後援：出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、奥出雲町教育委員会、飯南町教育委員会、
国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所

助成：島根県（社会貢献基金活動支援）、一般社団法人中国建設弘済会

総評：出雲市教育委員会教育政策課 副主任 恩田奈穂子氏

来賓：国土交通省出雲河川事務所 総括保全対策官 眞田淳二氏、

一般社団法人中国建設弘済会 島根支部長 江角忠也氏

出雲市環境政策課 課長 川上 寿氏

内容：斐伊川・神戸川流域の2小学校、1高等学校の児童・生徒が2024年に実施した河川環境調査等の取り組みをプレゼンテーション、動画などで発表しました。

出雲市立遥堪小学校6名、雲南市立鍋山小学校7名、出雲西高校インターアクトクラブ2名に(発表順)に発表していただきました。その後、他校の発表を聞いた感想など会場での意見交換を行い成果の検証を行うとともに活動の成果を共有しました。最後に発表校には表彰状と記念品贈呈も行いました。



【出雲市立遥堪小学校の発表】



【雲南市立鍋山小学校の発表】



【出雲西高校インターアクトクラブの発表】



【感謝状・記念品贈呈】

遥堪小学校の発表内容

私達4年生は地域の川や川の環境について調べてきた。9月12日に高浜川を調査した。天気は晴れ、気温34度、水温29度、透明度100cm。パックテストでの調査ではCOD5、pH7の結果だった。水生生物ではエビ類が60匹いた。水質判定では水質階級Ⅱの「ややきれいな水」であった。

夏には大雨により道路が冠水するなどの被害もあった。遥堪小学校の周辺の環境は素晴らしいが高浜川がコンクリートの護岸となったため、40年前の自然の護岸の時と比べると生き物が減っているとのことだった。人間と生き物が同じところで生活していくには問題もある。しかしコンクリート護岸の高浜川があるおかげで遥堪地区は安心して暮らせて、また沢山のお米が取れる。

私たちの暮らしが豊かになるにつれ地球温暖化が進んできている。このままでは50年後に夏の気温が40度を超えてしまうと聞いた。こうした身近な環境を守って行くためには、地球温暖化などの環境問題に関心を持つことが大切であると感じたので、地球温暖化に大きな影響がある二酸化炭素の排出を減らすため「ゼロカーボンチャレンジ」に取り組んだ。その学習で学んだことは、2月に行われる遥堪コミュニティセンターの発表会で地域の皆さんに報告をする。山・川・田んぼなど豊かな自然に囲まれた遥堪の自然をこれからも守っていききたい。

鍋山小学校の発表内容

学校の横には三刀屋川が流れていて授業中にも川のせせらぎの音が聞こえてくる。三刀屋川の水深はひざ下ぐらいなので調査しやすかった。今回の調査は9月10日、天気晴れ、気温32度、水温26度だった。透視度調査では100cm以上で水の澄んだ川だった。CODパックテスト結果では3~4mg/Lとなった。指標生物調査では小さな生物が多く難しかったが、水生昆虫はカワゲラ・オオシマトビケラ・ヒラタドロムシ・タニガワカゲロウ・ヒゲナガカワトビケラ・トビイロカゲロウ・ヒル類・コヤマトンボのヤゴ・サナエトンボのヤゴを見つけることができた。魚ではドジョウ・ドンコ・カワムツの他、ヌマエビも見つけた。水生生物調査の結果水質階級ⅠとⅡの生物が見つかったが、判定の結果「水質階級Ⅱのややきれいな水」となった。

三刀屋川は私たちにとって身近な川だ。今はきれいでも川を汚してしまうと汚くなったりするので、川にはゴミをすてないことや川に関心を持つことが大切だと思った。自分たちが大人になった時もきれいな三刀屋川であるようにしたい。

出雲西高校インターアクトクラブの発表内容

出雲西高発水環境改善プロジェクトと題して2年生女子と1年生女子二人で発表。

7月20日(8名参加)と9月14日(10名参加)に神戸川わかあゆの里で、CODパックテスト調査、水生生物調査などを行った。ヒラテテナガエビやアユなども採取できた。

45年前から稲佐の浜や日御碕海岸・くにびき海岸などで海岸清掃を行ってきた。その結果日本海岸は韓国、北朝鮮、中国のゴミが60%で外国のゴミでいっぱいなのが分かった。先輩達が島根県庁文化国際課に行き、現状を訴えた。そして高校生の日韓交流をするようになった。(10年前から)日韓の高校生による料理作り交流会や日韓のゴミについての意見交換会を開催した。漂着ゴミ、特にプラスチックゴミ問題は世界の問題だと分かったので、島根・鳥取26箇所でもマイクロプラスチックゴミの調査も行った。海と湖をきれいにするためには川をきれいにするのが重要ということが分かった。

川や池を浄化するBK-1団子作りにも挑戦している。「赤川の水質を浄化しホテルを呼び戻すプロジェクト」としてBK-1団子を投入し、ホテルの幼虫やカワニナを放流してホテルが戻ってきた。また神戸川

漁協からサケの卵をもらい受け、学校で飼育し孵化に成功して神戸川へサケの稚魚を放流することもできた。

海をきれいにするには川を、川をきれいにするには美しい森を作ることだと思い、間伐・枝打ちや植林にも挑戦した。地球の温暖化を防ぐためには豊かな森を作ること重要だ。

(温暖化の原因のCO2を吸収)(災害・山崩れを防止し、きれいな水を作る)

私達はこの素晴らしい出雲の水環境を保全・改善するために精一杯努力していきたい。



【会場での意見交換会】

出雲市教育委員会教育政策課副主任 恩田奈穂子氏総評

3校それぞれすばらしい発表で、大人も学びの多い発表会だった。身近にありながら普段気にしたりしていない川を今回学習して様々な気づきがあったと思う。小学生の皆さんに私が大事にして欲しいのは、川がもっときれいになって欲しいと思った気持ちを行動につなげて生活の中で活かしてほしいということ。川や海のゴミ拾いだけでなく、道に落ちているゴミ一つを拾うことでも環境を良くしていくことにつながるので実践してください。

出雲西高生は45年前から継続しながら、続けることは大変だと思うが、先輩方から引き継いで視野の広い活動をされていて感心しました。先ほども意見交換会がありましたが、同じ環境問題に取り組んだ小学生同士や、小学生と高校生とも交流があれば良いとも感じた。これからの皆さんの活躍に期待している。



出雲河川事務所総括保全対策官 眞田淳二氏あいさつ

河川調査などの活動を通じて「知る」ことが大事。知る以上に「体験する」ことで身に着くことがたくさんある。体験を通じて「考える」ことで知識として蓄積されていく。私は、それが経験値となり知ることにも活かされてくると考えている。遥堪小学校の発表にあった、40年前はみんな川で生き物を採っていた時代だった。私も小学校低学年の頃は毎日川に入って生き物を採ってきてそれを飼育したりしていた。それらの体験が今の河川事務所です役に立っている。小学生の皆さん、今日高校生の話を聞いて年齢を重ねるとできることも増えて



くるので、その中で自分のやりたいことを見つけて良い大人になって行ってほしい。

斐伊川・神戸川流域環境マップづくりの活動を支援している私たちにとって、大変有意義な発表会であったと思うので関係者の皆様に感謝申し上げます。

一般社団法人中国建設弘済会 島根支部長 江角忠也氏あいさつ

中国建設弘済会は国土交通省のいろいろな事業を通して地域づくりや事業に関心を高める活動の支援をしている団体です。すばらしい発表をありがとうございました。小学校の皆さんはたくさん調べて川に関心を持っていただいた。これからも川を身近に感じながら、川との関わりを持ち続けていただきたい。近年災害が多発している。国土や暮らしを守るため、これからも川などに関心を持ち続けてほしい。



【発表者・関係者記念撮影】

NPO 法人しまね体験活動支援センター 青木充之理事長あいさつ

2校の小学生の皆さんの調査活動・成果発表ともに素晴らしかった。川に直接入って調査した体験は得難いものなので大切にしてほしい。出雲西高校の生徒達の素晴らしい発表を見てああいう風になりたいと思ったと思う。今後は皆さんに後を継いでもらいたいと思う。

長い期間、素晴らしい活動に取り組んできた出雲西高校の皆さんには、大学に行ったり社会人になっても、日本の環境・地球規模の環境、さらには今課題となってきた宇宙の環境問題にも関与できるような大人になってほしい。

今後も私たちしまね体験活動支援センターは体験活動を支援して行くので、今回の体験を活かして、大人になってから活かしてほしいと願っている。

